

CASE STUDY

学生と共に進める国際化

福岡女子大学

地方の公立大学ではあるが、国際性に関して高い評価を受けている福岡女子大学。同大学がめざす人材像と教育プログラムのしくみについて聞いた。

リーダーに必要な 違いを受け入れる学び

本学は国際化の深化と質の高い教育の実現を通して、競争力の高い大学となることをめざしています。この目的のもと、2011年4月に、2学部5学科を国際文理学部への1学部3学科へと再編しました。そして、全学を挙げて、キャンパスの国際化と、主体的で幅広い学びを重視した実践的な教育に取り組んできました。

国際化では、実践的な語学力の育成とともに「異質な他者と接すること、自己の成長につながる機会」を数多く提供しています。国際社会で人をリードするには、異なる考えを受け入れ、新たな考えを創造する「しなやかな心」が欠かせないからです。特徴的な取り組みの一つに、学

科を問わず、1年次は全員、留学生と共に寮で暮らす初年次の全寮制教育があります。日常生活の中で、英語でのコミュニケーションと異文化交流を行う、学生生活をまるごと国際化した環境となつています。学生は1年間の寮生活を通して語学力やコミュニケーション能力、異文化理解と適応力を高め、さまざまな国籍の仲間と絆を深めます。加えて、学生主導のイベントなどの企画、運営を通してチームワークを身に付けます。

キャンパスにおいても、異文化交流を促す取り組みを行っています。English Villageは英語のみを使用する合宿形式の研修で、現代日本文化を学びに来日したWJICの短期留学生在が世話役を務めます。英語による講義などを実施しているサマープログラムで

は、約20人の留学生と交流し、共に学びます。これらのプログラムにより学生は、日本に居ながら海外留学を疑似体験できます。もちろん、学生同士の交流も深まります。

学生と一体となって 国際化を推進

海外への学生の派遣には、協定校への交換留学のほか、2〜4週間程度の語学・文化研修や海外体験学習などがあります。これらの短期海外研修には1年生の約3割が参加します。入学前から留学を考えていた学生もいますが、入学後に留学生や留学経験者などとの交流を通して触発され、参加を決める学生もいます。短期留学に参加した学生は長期留学にも積極的です。

学生は、国際交流のサポーターとしても活躍しています。外国人留学生や海外からの訪問者との交流に積極的に関わる学生サポーター¹⁾・JD-Matesに登録している日本人学生は233人(2017年度)で、5人に1人が留学生支援に携わっています。

このように、寮生活やさまざまな活動を通して仲間意識を高めることは、学生の主体性と協同性を育み、本学の教育活動のベースになっていきます。本学は学生数1000人規模の大学ですが、少数だからこそ、学生と教職員が力を合わせて運営していく文化が生まれています。教育プログラムや制度の充実を図るとともに、教職員と学生が一体となって活動を盛り上げていくことは、本学らしい国際化の進め方だと考えています。



国際化推進センター副センター長 高原芳枝
たかはらよしえ ●バース大学(英国)大学院経営学博士号取得。九州大学国際交流推進室准助教を経て、2016年福岡女子大学国際化推進センター講師に着任。2017年より現職。主な研究テーマは高等教育マネジメント、大学の国際化、国際連携戦略。

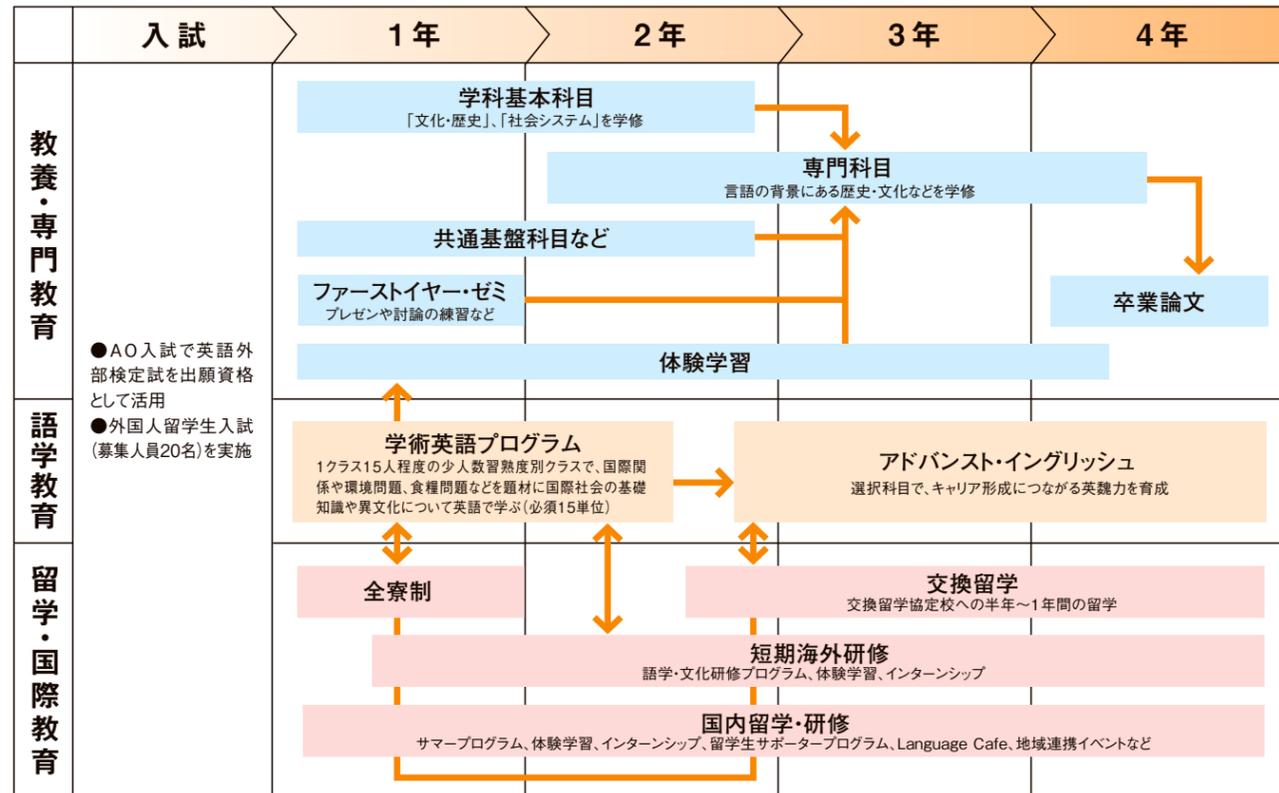
取材・文/本間学 撮影/福山哲



学生数/約1000人
学部/国際文理(国際教養学科、環境科学科、食・健康学科)
大学院/人文社会科学、人間環境科学
▶THE世界大学ランキング日本版2018/国際性14位

めざすグローバル人材像 ▶ 次代の女性リーダーを育成

国際文理学部国際教養学科の学生のモデルケース



注目! 初年次の全寮制教育で 社会性、国際性を身に付ける

国際文理学部の開設に合わせてオープンしたのが「国際学友寮なでこ」だ。日本人学生は初年次の1年間、留学生は4年間をこの寮で生活する。1ユニット4人(日本人3人、留学生1人)でルームシェアをしている。

寮では、英語を使って生活する時間や全体で活動する日が決められている。平日は毎朝1時間の「イングリッシュ・タイム」を設け、ユニットごとに料理や食事をしながら英語を話す決まりとなっている。毎週月曜日は「イングリッシュ・デイ」で、その日は一日、英語で寮生活を送る。

月曜日は寮活動の日でもある。19:00~20:00の間、寮生全員が集まり、イングリッシュ・アクティビティや、防犯や食に関する勉強会など、さまざまな活動に取り組む。そのため、月曜日はアルバイトが禁止されている。

こうした活動を通して学生はどう成長するのか。「自分と違う考えを持つ人と協働することで、コミュニケーション能力が付き、積極性も増しています。入寮時は『私は人前で何かをするのは苦手だから...』と話していた学生が周囲から刺激を受け、『自分も何かやってみよう』という姿勢に変わる様子も見られます」(高原副センター長)。

同大学は委員会活動が活発で、全学生が参加している。寮生活で培われた積極性、学生のまとまりのよさは、さまざまな活動の運営においても発揮されている。



毎週月曜日に開催されている寮活動での一コマ。この日は「異文化理解講座」で、留学生の話に全員が耳を傾けた。

*1 The World of Japanese Contemporary Culture Program 現代日本文化を学ぶ半年から1年間の外国人留学生受け入れプログラム
*2 Joshi-Dai-Mates